

Title	介護者の在宅介護継続意向に関連する居宅介護サービスの検討
Author(s)	大角, 和; 杉浦, 圭子; 伊藤, 美樹子 他
Citation	日本看護研究学会雑誌. 2006, 29(3), p. 189-189
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/52421
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

160) 介護者の在宅介護継続意向に関連する居宅介護サービスの検討

大角 和, 九津見雅美, 杉浦圭子, 伊藤美樹子, 三上 洋
(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)

【目的】

介護保険制度における居宅介護サービスの利用と介護者の在宅介護継続意向との関連を明らかにすることを目的とする。

【方法】

2005年10月時点で大阪府東大阪市に在住し、要介護認定を受け、かつサービス給付実績のある世帯から要介護度別に層化無作為抽出した3,934世帯を対象に郵送による自記式質問紙調査を行った。調査項目は、介護保険サービスの利用実績、要介護者の年齢、性別、要介護度、認知障害の数(老研式)、介護者の年齢、性別、主観的健康感、介護に対する今後の意向である。調査に回答が得られた2,365件(回収率60.1%)のうち、介護者が家族であり、介護に対する今後の意向で「わからない」「その他」と答えたものを除く757件を分析対象とした。分析は介護に対する今後の意向が「在宅介護継続」か「施設入所希望」かを従属変数、介護者・要介護者の状況で制御したサービス利用内容(訪問介護、訪問看護、デイケア・デイサービス、ショートステイ)を独立変数としたロジスティック回帰分析を行った。本研究は大阪大学医学倫理委員会の承認を得ている。

【結果】

介護に対する今後の意向を「在宅介護継続」としたものは600人(以下:在宅群)、「施設入所希望」としたものは157人(以下:施設群)であった。在宅群は要介護者、介護者とも7割が女性で年齢は要介護者が 82.4 ± 8.4 歳、介護者 61.0 ± 11.7 歳であった。施設群は要介護者の7割、介護者の8割が女性で年齢はそれぞれ 82.7 ± 8.1 歳、 62.4 ± 10.3 歳であった。ロジスティック回帰分析の結果、サービス利用内容ではデイケア・デイサービス(OR:537.340 - .845)やショートステイ(OR:403.232 - .702)の利用がないことが介護者の在宅介護継続意向と関連を示していた。制御に用いた要介護者・介護者の状況では、要介護者の要介護度が高いこと(OR:1.29 1.096 - 1.524)、認知障害の数が少ないこと(OR:.848 .788 - .912)、介護者が男性であること(OR:.493 .275 - .886)、主観的健康感が高いこと(OR:1.95 1.293 - 2.666)が在宅介護継続意向と関連していた。

【考察】

レスパイトサービスとして介護者の休息となると考えられているデイケア・デイサービス、ショートステイの利用は、本研究では施設入所希望との関連を示した。サービス利用以外では介護者の健康状態がよいこと、要介護者の要介護度が高いこと、認知障害が軽度であることで介護者が在宅介護の継続意向を持つことが示唆された。